

OF-1

がんゲノム医療を考えよう！

若井 俊文（新潟大学・消化器・一般外科）

日本癌治療学会学術集会市民公開講座では、市民の皆様と「がんゲノム医療」について一緒に考える時間を共有したいと考えています。遺伝子解析技術の進歩により、がんの原因となる様々な遺伝子変異が相次いで発見されてきました。固形がん領域では、国際がんゲノムコンソーシアムや米国の The Cancer Genome Atlas など、次世代シーケンサー（NGS: Next-Generation Sequencer）を用いた大規模なゲノムの解析により、様々な固形がんの遺伝子変異情報が解明され公開されています。NGS の利用は、基礎医学研究にとどまらず臨床医学研究を通じて、実際の医療現場に導入されようとしています。

2015 年 1 月に行われた米国オバマ大統領の一般教書演説において、“Precision Medicine Initiative”が発表され、世界的に注目を集めました。Precision Medicine とは、遺伝子情報、生活環境やライフスタイルにおける個々人の違いを考慮して疾病予防や治療を行うという新しい医療の考え方です。Precision Medicine は、従来型医療からの脱却を促し、特に疾病予防という医療サービスの世界にイノベーションをもたらす可能性があるものとして期待されています。

「がんゲノム医療」とは、がんの遺伝子変異に基づいた個別化治療のことであり、概念的には、がんの予防も視野に入れた医療を意味しています。がん種が異なっても同じ遺伝子に変異がある場合や、同じ分子標的薬が有効な場合もあることが分かってきました。このような背景から、特に標準治療がないがんや標準治療の効果がなくなった患者さんについて、がんの遺伝子を網羅的に調べ、個々の患者さんのがん組織の遺伝子変異に合った適切な薬剤を選択する治療への取り組みを紹介します。がんゲノム医療は、厚生労働省の第 3 期がん対策推進基本計画においてその推進が掲げられ、がんゲノム医療中核拠点病院・連携病院が基軸となって、全国どこにいてもがんゲノム医療を受けられる体制の整備が進められています。